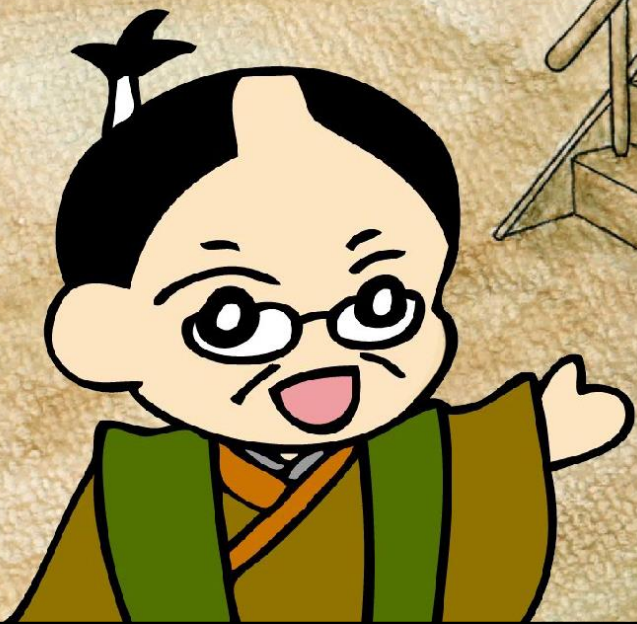


第7話 たび丸、

夢のまちづくりプラン





ほれ見よ、たび丸。草津のまちがこんなに栄えておるぞ！
これもそちのおかげじゃ！



ありがたきお言葉でございます。
・・・まあ、本当に僕がやったんだけど（ボソッ）



・・・ウホンっ。
ところで、そち、わしの下で働いてみんか？



ええっ——！！本当に！？
（やった！これで根無し草のたび人生とはおさらばだ。）



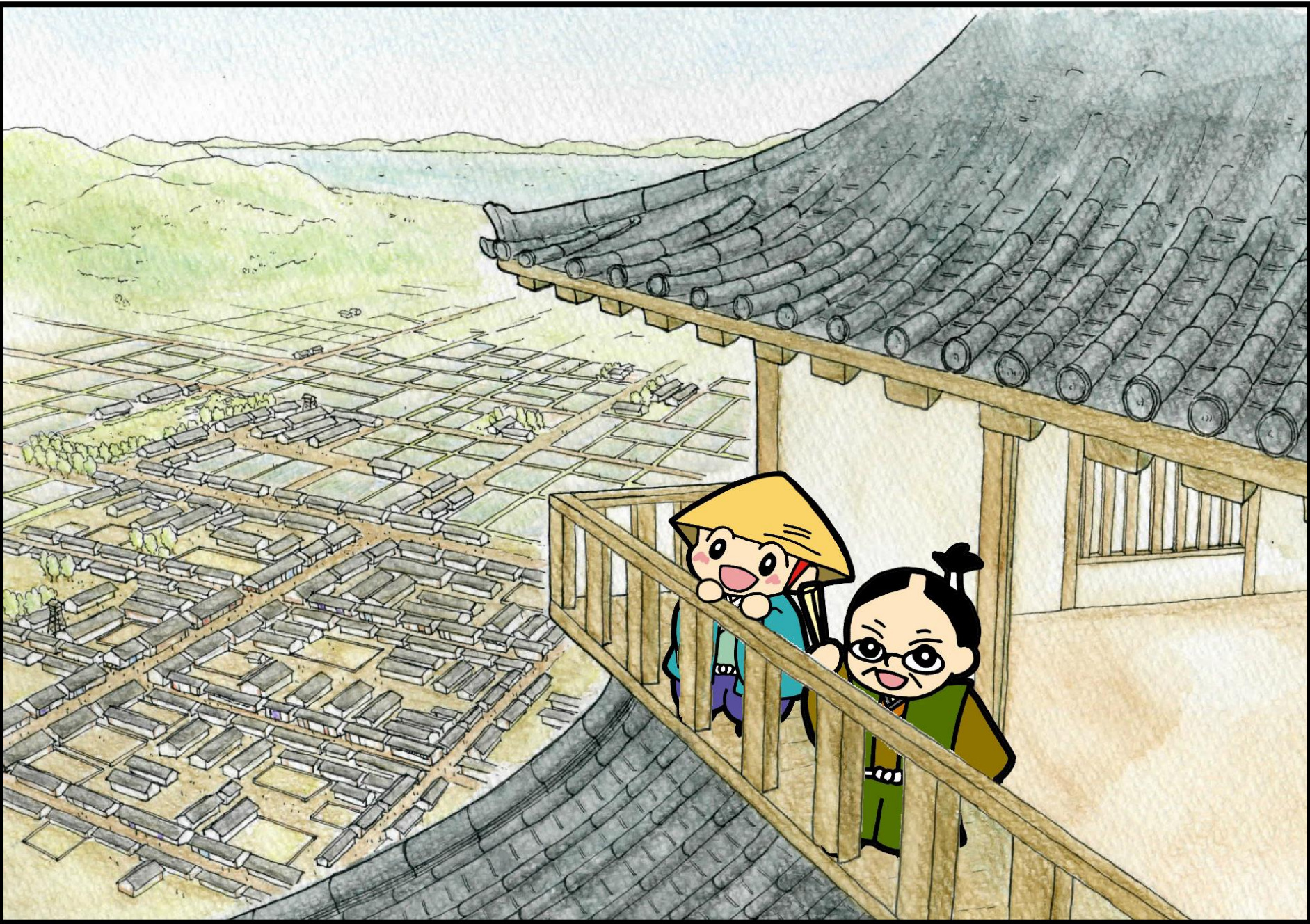
わしは草津をもっと栄えさせるぞ！
そのためには一にも二にも住宅じゃ！
人を集めて、物をつくって年貢はガッポガッポじゃ！
はははははっ！

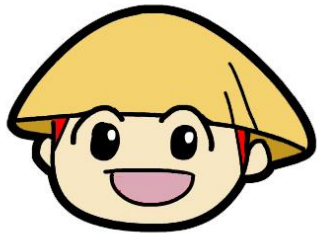


たび丸、そちもわしに仕えるなら、
草津に家を建ててみよ。
田んぼを潰して、山を切り開いて大邸宅を
築いてみてはどうだ？



(大きな家でお藤と・・・)





お藤さ～ん！



あら、たび丸さん。
どこかお出かけなの？



ぼくのつくったまちなみを見て回ってるんだ。
もしよかったら、一緒に・・・



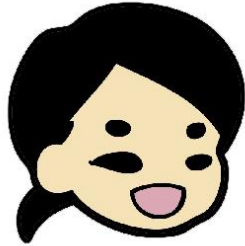
お藤、遅れてごめん。



あら、ゲンちゃん、遅いじゃないの。
たび丸さん、ごめんなさい。
私たちこれから綺麗になった城下町でデートなの。



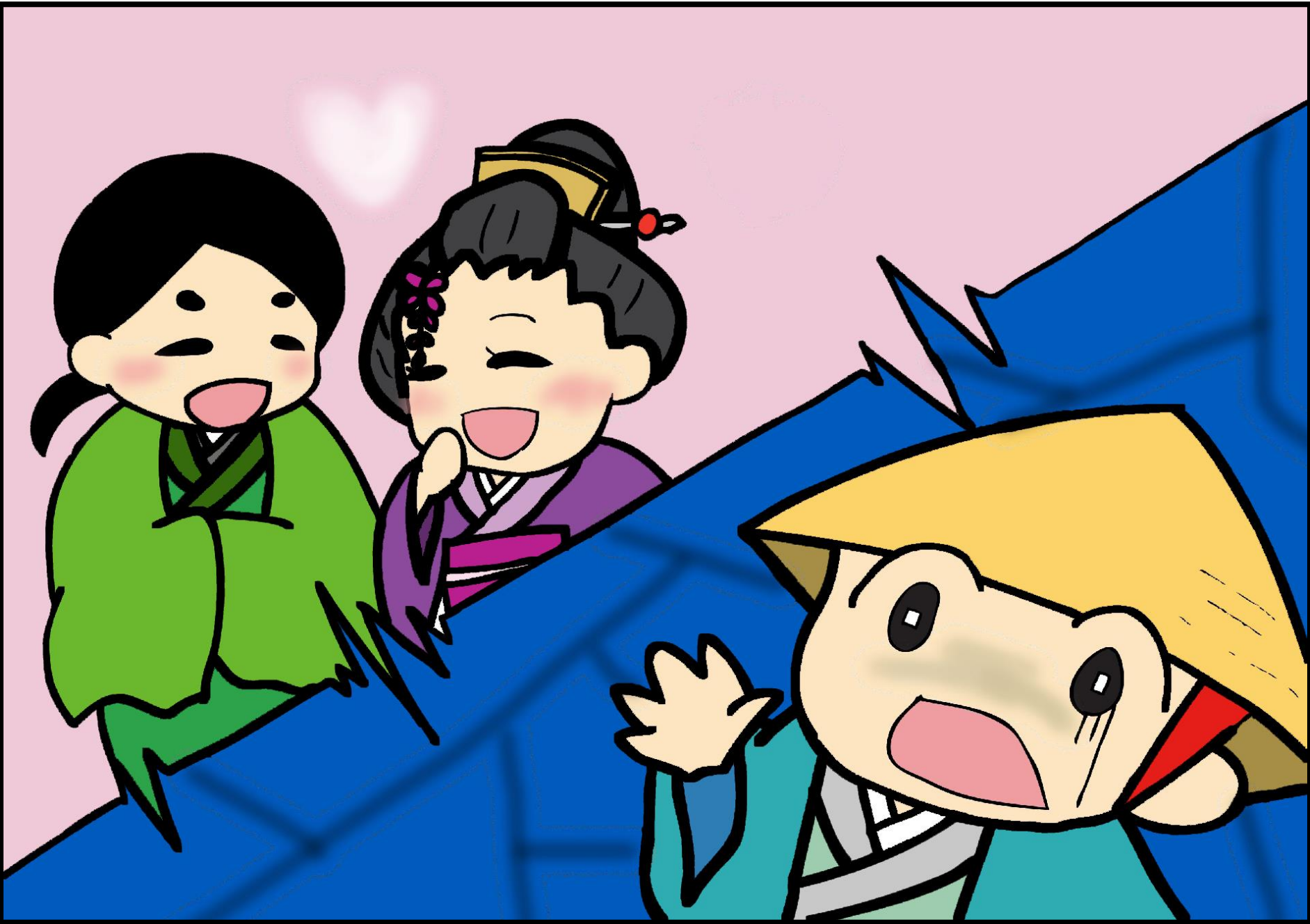
(なぬっ・・・、どうのこと?)



たび丸様、また会いましたね！
たび丸様が区画整理をして^{にぎわ}いただいて、この城下町も
デートにぴったりの賑いのあるまちになりましたよ。



(・・・・・・・・)





(はぁ～、何のためにまちづくりなんてしたんだろ・・・？)



たび丸様！オラの田んぼに家が建っちゃうんか？



オラの畑は呉服屋になっちゃうんか？



！？
みんな、どうしたの？



お殿様が、広い土地に建物たくさん建てて、
年貢たんまりもらうんだろ。



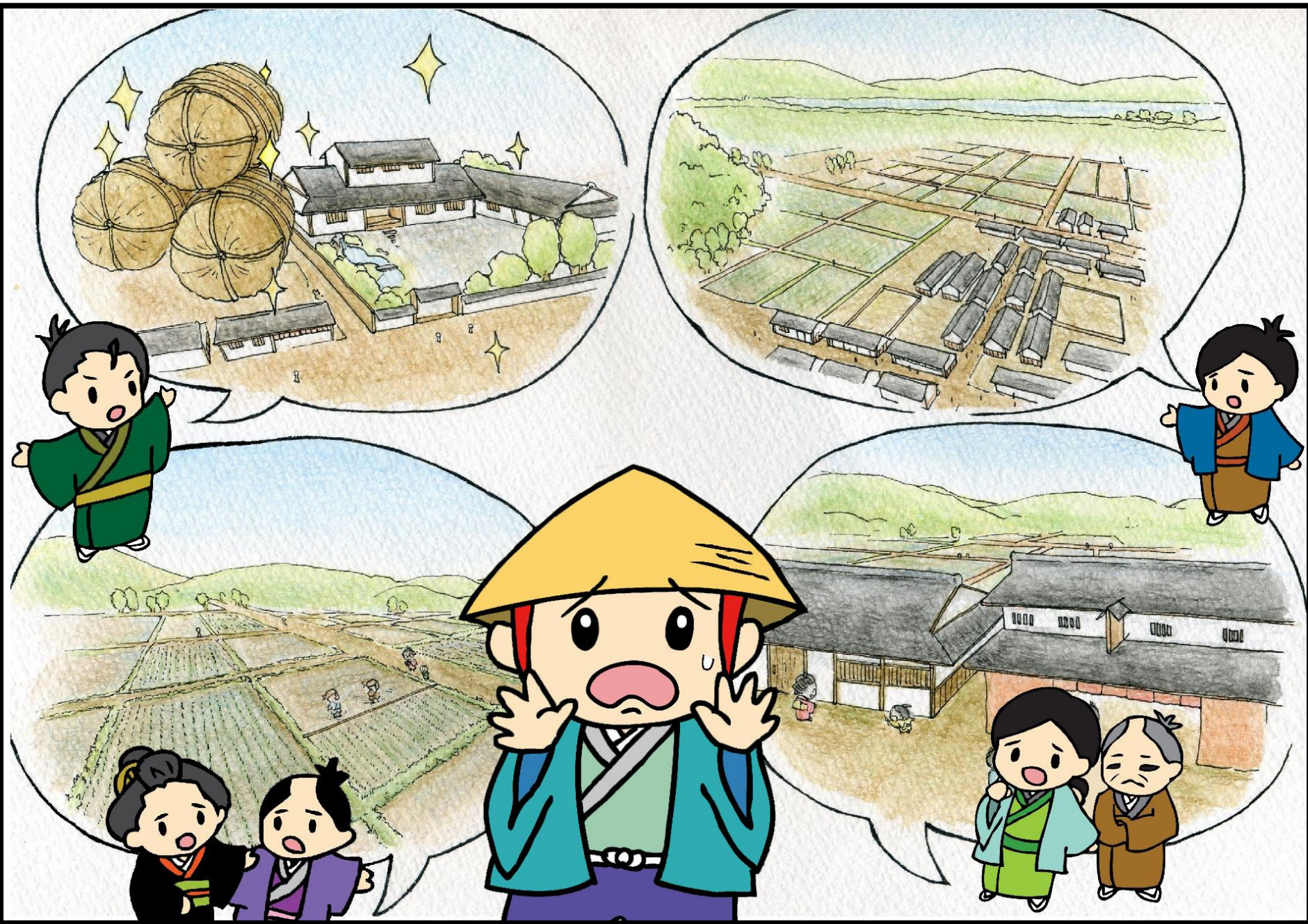
オラ、綺麗な道もまちも好きだけど、
緑の茂った山も大好きなんだ。



田んぼや畑で、土さ捏^こねて、うめえもん一杯作りてんだ。



たび丸様、頼みます。綺麗な城下町も、
ちょうかん長閑な田園風景も、澄んだびわ湖の景色も共有するような、
そんなまちにしてください。





(殿様に持ち上げられて、^{うちょうてん}有頂天になって、
本当になにやってるんだろ・・・。
市民のみんなの声なんて全然聞いてなかったな)



ぼく達のすみかをつくってくれたみたいに、
また今度もたび丸さんがみんなを助けてよ。



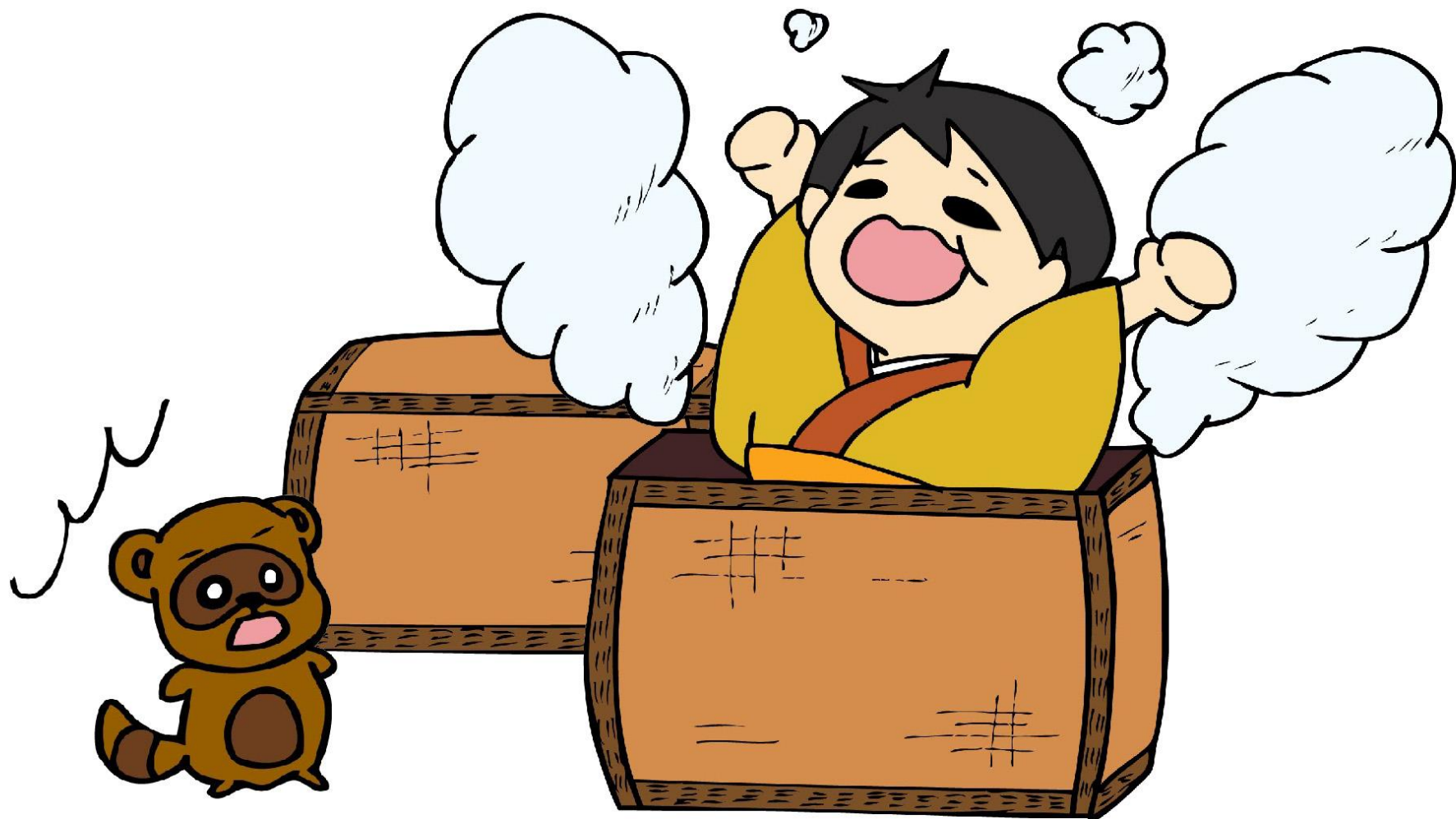
いつの間に！？



この前、あげたつづらがあるじゃん。
アレ、役に立つから開けちゃいなよ。
それ～！



そっちで勝手に開けてるじゃん！





よいしょ、あ～狭かった。



^{ごこうさ}
(後光差して、登場とかじゃないんだ・・・)



お腹空いたなあ～。何か食べたいなあ～。



ホンとに役に立つの、アレ。



.....



失礼な！悩みがあるなら、言ってごらんよ。
解決するから、何か食べ物が欲しいな～、もぐもぐ



もうおやつに取っておいたまんじゅうを食べてるし、
かくかくしかじか・・・



農地が減って美味しい食べ物がなくなるのは困るよね！
そういうことなら、都市計画指南書（マスタープラン）を
つくってしまえばいいんだよ。

都市計画指南書（マスタープラン）とは

市町村都市計画マスタープランは、都市計画の指針として定めるものであり（都市計画法第18条の2第1項）、まちづくりの将来ヴィジョンを明らかにして、その実現に向けての大きな道筋を明らかにするものです。

すべての都市計画の基本方針となるものであり、個別の細かな計画や事業を定める際には、この都市計画マスタープランに即したものにしなければなりません。（同条第4項）

作成にあたっては、必ず住民の意見を反映させることになっており（同条第2項）、都市計画マスタープランはみんなでつくるまちづくりの第一歩といえます。住民意見の反映には、策定委員会の設置、説明会、アンケートの実施等が一般的です。

なお、これまでのお話の中で取り上げた土地区画整理事業や地区計画等も都市計画マスタープランが策定されている以上は、それに即したものにしなければなりません。



都市計画指南書（マスタープラン）とは

草津市では、平成 32 年を目標にした将来の都市計画の基本的な方針となる「草津市都市計画マスタープラン」を平成 18 年 3 月に策定しています。
(平成 22 年 6 月に一部変更)

この計画では、「ゆとりと活力のある生活実感都市 草津」をテーマに、市民が真に豊かな生活を実感できる美しいまちを目指すとともに、地の利を活かした、経済的にも社会的にも持続可能な地域社会の創造を目指すものです。

この「草津市都市計画マスタープラン」の策定にあたっては、市民の方に積極的な参加をいただけるように、ワークショップ形式を用いた「住民会議」を開催し、広く地域の声を取り入れました。とくに「住民会議」での意見は「草津市都市計画マスタープラン」の「地域別構想」の策定の参考としています。

「草津市都市計画マスタープラン」策定後は、このプランに即して都市計画にかかわる計画や事業が執り行われています。

たび丸くんが都市計画をするんじゃないよ。
みんなでまちをつくっていくんだよ。





しげ丸、ありがとう。

よ～し、都市計画指南書（マスタープラン）をつくって、
計画的なまちづくりをしていくぞ！



がんばってね、たび丸さん。



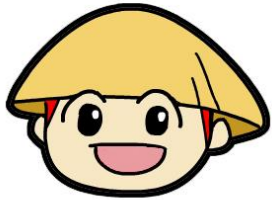
違うよ、五月ちゃん。

この都市計画指南書（マスタープラン）はみんなで
つくっていくんだよ。



よし、これからまちのみんなの意見を聞きに行こう！

数日後～



それじゃ、五月ちゃん。

この都市計画指南書（マスタープラン）の巻物を
殿様に届けてね。



たび丸さんはまた旅に出ちゃうのね。



ぼくはまだまだ未熟なんだよ。

まちづくりはみんなでするっていう当たり前のことを
都市計画指南書（マスタープラン）をつくって、
やっとわかったんだ。



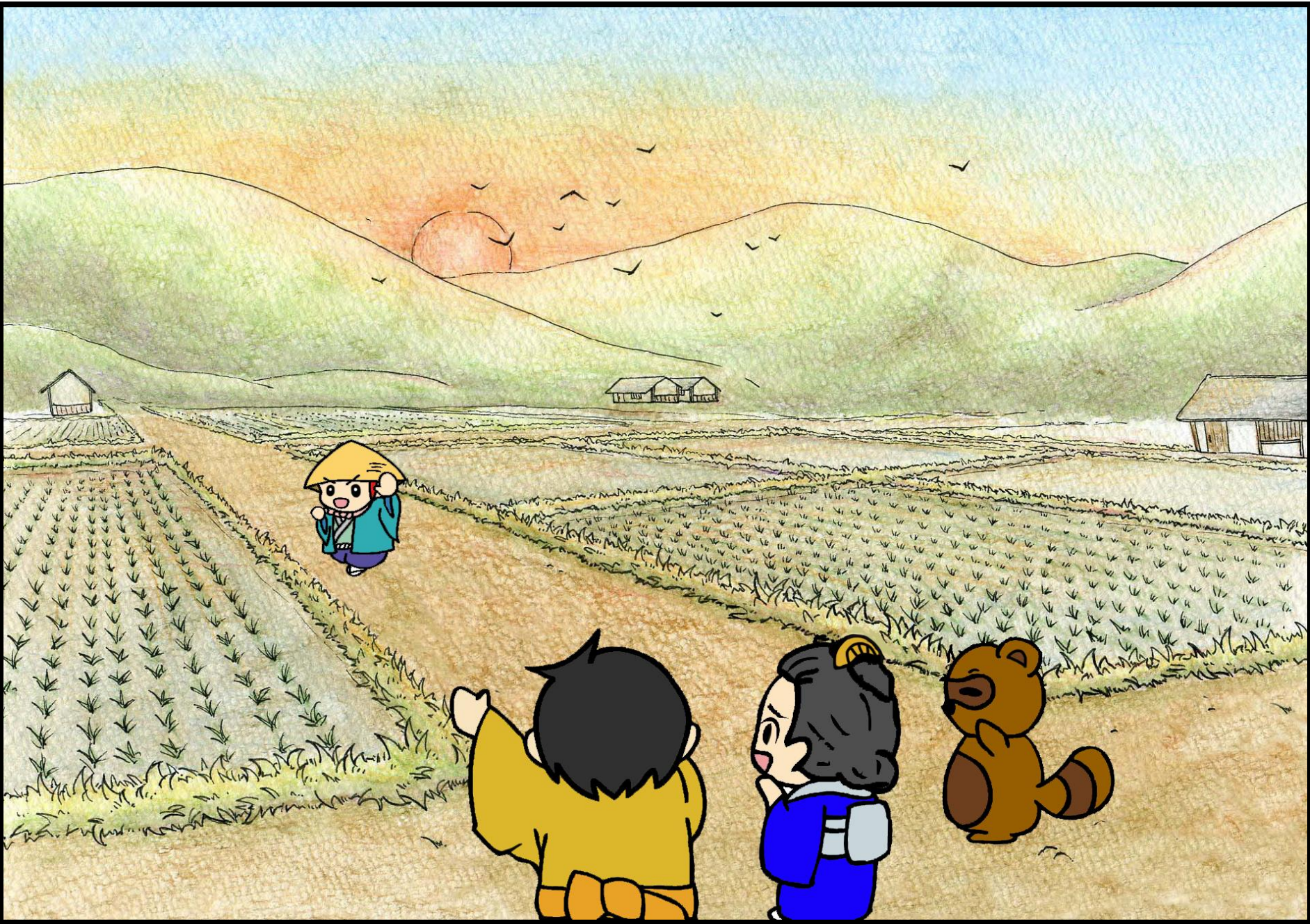
だからもっと都市計画を勉強して、
草津を良くしたいから、
いろんなまちづくりを勉強しに旅に出るんだ！



（単にお姉ちゃんにも、お殿様にも合わせる顔が
ないから出て行くんじゃ・・・）



それじゃ、都市計画の旅に出発だぁ～！



くさつ博士のホントの歴史

古代、白鳳時代には多くの寺院が立地した常盤地域。常盤を含む湖辺地域では、農業の近代化に向けて昭和 43 年から大型圃場整備が進められ、農地の景観は大きく変容を遂げています。圃場整備以前には、古代の耕地の区画で、栗太郡の条里制が布かれ、1 町間隔の区切りが残る田園景観が残っていました。

草津市が誕生した昭和 29 年には、市域の中心部を除けば、まだまだ田園風景が残っていました。その後、草津市は交通形態の発展とともに、まちの様相は大きく変容を遂げていきます。昭和 31 年の国鉄東海道線の電化、昭和 39 年の名神高速の開通、昭和 43 年の草津駅西口の開設、昭和 45 年の東海道線京都～草津間の複々線化、さらに平成 6 年の南草津駅開業など、交通網整備の画期によってまちのすがたも変わってきました。鉄道の新快速が走り始めたことで、京阪神への利便性が高まり、駅前の高層住宅の立地や、郊外の住宅開発などが大きく進んでいます。草津のまちのうつりかわりは、こうした交通体系の変容とともにあるといって良いと思います。

